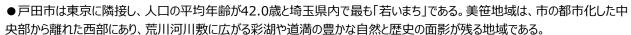
1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど



- ●美笹公民館は福祉センター内にあり、地域住民の活動や学びの場になっている。しかしながら、老朽化が進み、また、美笹公民館の認知度が低く、利用者も高齢者や特定の団体に固定化している。特に若年層の利用が少ない状況である。さらに、地域の学校や町会などとの連携や地域人材の活用場面が少ない点が課題である。
- 人生100年時代を迎え、自分らしく豊かに生きるための生涯学習の需要が高まるとともに、いつでもどこでもだれでも学べるオンライン学習や<mark>高齢者のデジタルリテラシーの向上</mark>、学びから活動へとつながるきっかけが求められている。

2. 取組内容(力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など)

●オンライン(オンデマンド)講座の開設

市内の公民館で初めて、「戸田の歴史講座」及び「断捨離講座」を会場受講と共に当日の 講義動画を市公式YouTubeで配信した(ハイブリッド型講座)。オンデマンド受講は、会 場受講者の約2倍の人数の申込みがあった。受講者は自分のスマホやパソコン、タブレット 等でいつでも、どこでも、何度でも動画で繰り返し学習することができ、公民館への来館が難 しい方でも、それぞれのライフスタイルに合わせて学ぶことができる機会を提供した。

●デジタルデバイドの解消

市民のICT活用を支援するため、NPO法人ITボランティアの会に委託し、毎月第一土曜日にスマホやパソコン質問コーナーを開催している。また、講座案内のチラシ裏面を活用し、オンライン講座の受講方法を見える化して周知した。

●学校・地域のつながりづくり

講座の企画にあたり、「戸田市生涯学習人材バンク」に登録している講師や高等学校の部活動に講師を依頼し、市民や生徒が学んだ成果を地域に還元する機会を提供した。

●情報発信の拡充(公民館だより・ホームページ・SNS)

公民館だよりをリニューアルして職員が取材した地域情報(美笹地域の学校や町会活動、地域行事等)を掲載するとともにホームページやSNSの情報発信を充実させ、地域への理解を深める機会を提供した。

講座チラシ裏面を活用した オンライン講座の見える化



3. 取組による成果や効果

- ●ハイブリッド型講座の実施により、これまでなじみがなかった若い世代をはじめ幅広い世代 や、近隣だけではなく市域全体の市民の利用があり、広く学びを提供した。
- ●スマホ・パソコン相談のチラシやポスターにより広報を強化したことにより、毎月の利用者の相談が増加し、高齢者のIT関係の困りごとに対応できた。
- ●公民館だよりの取材により学校や町会活動、地域行事等を訪問取材する中で地域とのつながりを育み、学校との信頼関係を構築し、学校連携講座や学校から美術部作品展の企画を提案いただいた。学校連携講座や展示については、生徒の地域での発表の機会になるとともに、生徒へ多くのメッセージが寄せられ、学校・地域の相互交流の成果があった。



美笹中学校美術部第1回展示会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ●学校関係者や社会教育・家庭教育関係者、サークル団体代表者で構成する戸田市公民館運営審議会(年2回、12名)において、公民館の実施計画や実績報告、「公民館の今後のあり方」に基づいた具体的取組の検証をしている。
- ●市民が講師となり活躍する場を提供することにより、生涯学習の担い手づくりをしている。
- ●各講座終了時に参加者のアンケート実施や意見交換を行い、今後の講座や事業企画を検討している。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ●美笹地域での学びあいを育み、地域でのつながりをつくるため、普段からの窓口や電話対応、公民館だよりの取材等での地域の方とのコミュニケーションを大事にして、利用者のニーズや地域の状況を把握するなど、地域との顔が見える関係づくりを大切にしている。
- ●「地域の人が主役になれる公民館」を目指し、地域人材の講師への起用や、来館者のニーズ に沿った学習情報の提供を意識している。



地域の高校と連携した「夏休み子どもチアダンス講座」

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

地域の人々や企業、学校等が講師となり、地域の中で学びあいができるように学びをつないでいくともに、ICTの積極的な活用により、いつでも、どこでも、どなたでも学べる拠点となるよう、市民と学びや活動をコーディネートしてつなげていく公民館運営に取り組んでいきたい。



地域の人材を講師に起用した「天然酵母のパン作り講座」